【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和４年度学校評価 結果

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	唐津市立鏡山小学校

1　前年度 評価結果の概要	【成果】①　校内研究と学力向上対策評価シートのマイプランを連携させることで、全職員の学力向上への共通理解が個々の成果目標に反映され、児童の学ぶ意欲への向上につながった。 ②　Teamsを利用して連絡事項を共有したり、業務記録表に目標時間を設定したりすることで、職員の業務効率化への意識が高まり、時間外勤務時間を削減できた。 【課題】①　心の教育推進のための授業実践や、望ましい生活習慣の形成のための家庭との連携の充実が必要である。 ②　特別支援教育の充実を図り、さらに個に応じた教育を進める。
2　学校教育目標	自ら考え行動し　いきいきと学ぶ児童の育成
3　本年度の重点目標	【知】①　学習規律を整える。　②　話合い活動を通して考えを深める授業を展開し、児童の学ぶ意欲を高める。 【徳】①　心の教育を充実するために、道徳教育や人権・同和教育を推進し、保護者との連携を図る。　②　特別支援教育の充実を図る。 【体】①　保護者と共に食育を推進する。②　望ましい生活習慣を身に付けるために、家庭での生活習慣に対する意識を高める。

4　重点取組内容・成果指標

（1）共通評価項目

重点取組			最終評価	学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師は、90.4%だった。児童への「学校の勉強はよくわかりますか」という質問に対して、肯定的な回答をした児童は92.9%であり、学力向上に繋がっていると考える。 ・校内研究で取り組んだ教科を中心に、学力向上に向けた取組が推進できた。	A	・広い意味での「学力」の向上は、地域の方とふれあいながら体験学習を進めていくことでついて行くと考える。今後、生活科や総合的な学習の時間等で泥を使って米やサツマイモを栽培する授業を是非取り入れてほしい。例えば、バケツ稲ならば、手軽に観察できる。今後、コロナ前のように地域ボランティアを充実させていくことを提案する。	学習指導部【瀬戸・荒木】 研究推進部【緒方・坂口】
	○学習規律の確立 ・「か・つ・おタイム」の徹底 か・・・片付け つ・・・次の時間の準備 お・・・お茶・おトイレ	○「授業が終わったら、片づけをして、次の時間の準備をしているか」、「授業開始時刻に着席することができているか」の質問に対し、肯定的な回答をした児童85%以上	・「次の授業の準備をして休み時間を過ごすことができていますか」、「授業が始まる前に席に着くことができていますか」の質問に対し、肯定的な回答をした児童が、それぞれ90.8%、89.2%であった。「どちらかというとできた」と回答した児童が、「できた」と回答できるようにするために、引き続き指導を重ねたい。	A	・今年度は「6年生ありがとう集会」の様子を直接見ることができた。児童の様子は、とても落ち着いていて、日頃の指導の成果を感じた。	学習指導部【瀬戸・荒木】 研究推進部【緒方・坂口】
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童80%以上 ○人権に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童90%以上	・「友達に思いやりのある態度や優しい言葉遣いができていますか」という質問に対して、肯定的な回答をした児童は93%であった。ただし、保護者アンケートでは、肯定的な回答が53.4%にとどまった。引き続き、人権を大切にする取り組みや差別を許さない集団作りの実践を行い、人権尊重の意識を高めていきたい。	B	・1000人を超える児童が生活する本校で、いじめがなくなることはないだろうと考える。だからこそ、親や教師だけでなく、地域が児童を見守り、寄り添い、話をしていることが大切と考える。	道徳教育推進教師【川原】 人権・同和教育担当【岡島】 各学年主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「学校は楽しいか」の質問に対し、肯定的な回答をした児童85%以上 ○認知したいじめの3ヶ月以内での解消率100%を目指す。	・児童意識調査では、「学校は楽しいか」の質問に対して87%の児童が楽しいと回答した。「いろいろな勉強が楽しいから」や「たくさんの友達と遊べて楽しいから」など、上期から継続して学校生活を楽しんでいる様子が伺える。 ・本年度に認知したいじめについては、組織的な対応が速やかにできている。現時点において11件中9件が解消している。	A	・高学年になるほど、いじめについて親や先生に話さなくなるものだ。アンケートだけでなく、学校生活での児童の普段のを見取る力を教師はつけていただきたい。その際、SSWやSC等の関係機関とつながり、対応しているとのことでいじめ対応については評価できる。	生活指導部【吉田直・野中】 各学年主任
	◎児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動【志を高める教育】	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童85%以上	・高学年児童を対象としたアンケートの結果を見ると、「将来の夢や希望をもっている」について肯定的な回答をした児童は約84%となった。また、夢や希望のきっかけを先生、親、友達など、自分の身の回りの人からの影響と答えた児童の割合は55%であり、身近な体験活動等が夢や希望をもつことにつながりやすいことが伺えた。	A	・コロナ感染防止による制限が緩和されていくと考えることから、地域ボランティアをもっと充実させ、体験活動をさらに取り入れていけたらと思う。保護者の学校への関わりには、意識の高さに差がある。その熱量の違いよって、PTA活動の進めにくさがあると思うが、引き継ぎや申し送りをしっかりと行うことで、児童の成長につなげていきたい。	主幹教諭・教務主任
●健康・体つくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ●「望ましい生活習慣の形成」	○「健康に食事は大切である」と考える児童95%以上 ○朝食をとって登校する児童95%以上 ○「1～2年生は21時、3年生は9時30分、4～6年生は22時までに就寝した」と答える児童が80%以上	・学校評価アンケート調査では、朝食をとって登校する児童96.6%で目標数値を上回り、各学年の目標時間内に就寝した児童75.3%は目標数値を下回る結果だった。健康調査時の児童の挙手による調査では、前者は97%、後者は1～2年生89%、3年生91%、4～6年生90%で、全体としては90%で、中間結果（84%）より上回ったが、学校評価アンケートとの差が大きかった。生活リズムの乱れが及ぼす影響を「保健だより」で伝えるなど、保護者への啓発や発達段階に応じた指導を引き続き行っていきたい。	A	・食育の取組は、十分にされているようだ。家庭環境には様々な事情が存在する。だからこそ、高学年になれば、親に頼らず自分で食事の用意ができるような指導も必要になってくるだろう。	健康指導部【前田・杉山】 学校栄養職員 養護教諭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●時間外勤務の上限の目安として、1か月45時間、1年間360時間以内を遵守する。 ○「自己のタイムマネジメントをしながら業務にあたることができたか」の質問に対し、肯定的な回答をした職員70%以上	・時間外勤務については、これまでの業務改善研修や定期的な呼びかけにより、職員の意識改革は進んでいる。1月までの時間外勤務45時間以内の職員は、平均70.2%だった。しかし、個別に改善するよう言葉をかける必要がある。 ・「自己のタイムマネジメントをしながら業務にあたることができたか」という質問に対し、肯定的な回答が71%で、目標値を超えた。職員への連絡をチームズで共通理解を図るなど、全員での会議を短縮し、学級事務様の時間に充てることができた。	B	・一月に45時間以内の時間外勤務を目標にされているが、それでも長すぎると感じる。職員の健康が確保されての学校業務である。もっと定時退勤を奨励して良いと考える。	企画会
	○教職員の連携促進	○「自己のタイムマネジメントをしながら業務にあたることができたか」「学年や部会で仕事の分担ができているか」の質問に対し、肯定的な回答をした職員70%以上	質問に対しては、96.2%が肯定的な回答をしており、業務負担の偏りが減少し、協力体制が強まったことを実感できた。さらに、地域ボランティアを充実させたり、児童に任せるべきところを増やしたりしていきたい。	A	・コロナ感染防止による制限が緩和されていくと考えることから、地域ボランティアをもっと充実させてよい。	企画会

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			最終評価	学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育の充実	○特別支援教育への理解推進･支援体制の確立	○「職員同士で密に情報交換を行い、具体的な手立てをもって支援することができたか」の質問に対して肯定的な回答をした職員90%以上 ○「特別支援教育に関する通信を読んでいる」保護者80%以上	・児童の様子について、学級担任や生活支援員と日々情報共有することで、共通の手立てを取りながら支援に当たることができた。職員アンケートにおける肯定的な回答の割合は96．1%だった。 ・保護者向けの通信を計画通りに発行し、多様性への考え方や関わり方などについて啓発することができた。保護者アンケートにおいては78．7%と数値目標を下回っており、より浸透するように継続していく必要がある。	A	・特別支援学級の充実が今後重要になってくる。地域や保護者がさらに柔軟な考え方をもち、多様性への理解を深めていきたい。	特別支援部【堀川・新】
○予防的・開発的指導	○基本的生活習慣の実態把握と改善指導	○生活目標のうち「あいさつ」「安全のきまり」「無言清掃」を守れたと答える児童85%以上を目指す。	・児童意識調査では、「明るいあいさつ」…81．6%、「安全のきまり」…84．7%、「無言掃除」…81．2%の児童が守れていると回答した。中間評価と比較して、「明るい挨拶」は改善傾向にあるが、「安全のきまり」や「無言掃除」は、前回の達成率を下回っており、今後の課題といえる。	B	・地域では、信号のない横断歩道で止まった車に対して、お礼をする児童が多い。感心なことだ。全体的には鏡山小の児童は礼儀正しいと感じる。	生活指導部【吉田直・野中】 特別活動部【久保・古川】

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・業務改善、教職員の働き方改革をさらに推進し、自らの授業を磨いたり、日々の生活を豊かにしたりすることで、自らの人間性や創造性を高め、子ども達に効果的な教育活動を行う。 ・いじめを許さない集団作りのため、人権教育や特別の教科「道徳」の充実を図る。特に、思いやりのある態度や言葉遣いに気を付けて学校生活を送ることができる児童の育成を目指す。